

ほごしゃ ちいき みなさま
保護者や地域の皆様へ

がっこう じどうせいとう まな かくほ とりくみ すす ほごしゃ ちいき みなさま
学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様へ
かんせんしょうたいさく とりくみ ごりかい ごきょうりやく たまわ ところ かんしゃもう あ
感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが
かんせん かのうせい うえ しんがた かんせんしょう いま かいめい てん かいほつちゆう
感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中
であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

わたし かんせんしょう かんせんしょう しゃかい へんか たい げんじてん かがくてき ちけん けんかい もと
私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、
ただ わ あ ひつよう わたし ほごしゃ ちいき みなさま つぎ にてん ねが
正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

だいいち かんせんしゃ たい さべつ へんけん ひぼうちゆうしょうどう ゆる
第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

だれ かんせん かのうせい かんせん じどうせいとう きょうりく がいこう たいおう せ えいせい
誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生
かんり てってい さら かんせん ふせ たいせつ
管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の
ひと いりょうじゆうじしゃ かぞく かんせん うたが わるくち い み まわ さべつとう はつげん
人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言
や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイル
こうどう どうちゆう こえ ひとびと やさ
スとの闘いの強い武器になります。

かんせん せ ふんいき いりょうきかん じゆしん おく かんせん かく けっぎやく
感染を責める雰囲気が広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局
ちいき かんせん かくだい え てん さべつとう ふせ ひつよう
は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

だいに がっこう かんせんしょうたいさく きょういっかつどう りょうりつ たい ごりかい ごきょうりやく
第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

かんせんしょう たいおう ちようき そうてい なか がっこう かんせんしょうたいさく こう がっこうきょういっく まな
感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを
だいじ きょういっかつどう すす こども すこ まな さいだいげんほしょう とりくみ すす
大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところ
です。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願い
してあります。

よそくごんなん じだい い じどうせいとう がくせい ひつよう ちから み つ
これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、
がっこう きょういっかつどう けいぞく ごりかい ごきょうりやく ねが
学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

しんがた かんせんしょう ただ たいおう さいしん かがくてき ちけんとう し ふかけつ
新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。
せいふ わ こうほう つと ほごしゃ ちいき みなさま かがくてき ちけんとう ひび
政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の
せいかつ い おも
生活に生かしていただきたいと思います。

れいわにねん はちがつ
令和二年八月

もんぶかがくだいじんはぎょうだこういち
文部科学大臣萩生田光一

児童生徒等や学生の皆さんへ

新型コロナウイルスが広がってから、皆さんは、学校はどうなるのだろう、この先どうなるだろうと、不安だったのではないのでしょうか。新しい学期を迎えるに当たって、皆さんに伝えたいことがあります。

まず、感染症にかからないようにするには、いくつかの方法があります。すでに皆さんが取り組んでいるように、話をするときにはマスクをしたり、手を洗ったり、具合が悪い場合には学校を休んだりしてもらうことです。そして何より、健康的な生活を送ることが大切です。それでも、これまでも皆さんは風邪をひいたり、インフルエンザになったりしました。今はさらに新型コロナウイルスが課題になっています。

この三つは、症状がよく似ています。ですから、今後、皆さんの誰もがこうした症状を経験することがあるでしょう。具合が悪い人の中には、新型コロナウイルスに感染したと診断される人も身近な人の中から出るかもしれません。もちろん、それが友達だと分かったら自分は大丈夫かなど不安になることもあるでしょう。

新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて、具合が悪くなっても、その後は言いだしにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに皆さんの地域で感染が広がってしまうかもしれません。

感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るよう励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えてほしいと思います。もし、自分が感染したり症状があったりしたら、友達にはどうしてほしいかということを考えて行動してほしいと思います。

すでに、感染した人たちが心ない言葉をかけられたり、扱いをされたりしているという事例が起きています。こうしたことが皆さんの周りでも起きないように、皆さんにも協力してほしいのです。

また、高齢者や病気がちの人は、感染すると症状が重くなってしまう危険があります。自分は元気だから大丈夫ということではなく、そのような人たちに感染させることがないように、思いやりの気持ちを持ってほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症が広がり、皆さんの日々の生活は一変したと思います。以前のように、友達と会いにくくなり、スポーツや文化に触れる機会も少なくなり、将来への不安やストレスを抱えている人も多いでしょう。

これまでも、私たち人間は、新型コロナウイルスのような新しい病気を経験してきました。そのたびに、世界中の研究者が病気の原因を探り、予防方法を見つけたり、薬の開発をしたりしてきました。そして、私たちは、病気と共存していく。この歴史は繰り返されています。新型コロナウイルスも研究が進んで解明されれば、予防と治療ができるようになり、新たな共存生活が始まります。

私たち大人は、皆さんの応援団として、将来の見通しを持ち、未来の社会の担い手である皆さんが学ぶ機会、遊ぶ機会、交流する機会を最大限作っていきます。それまで、皆さんは今自分ができる予防をしっかり行い、将来の目標を持ち、家庭や学校で日々の学びを続けてほしいと願っています。

れいわにねんはちがつ
令和二年八月

もんぶかがくだいじんはぎょうだこういち
文部科学大臣萩生田光一